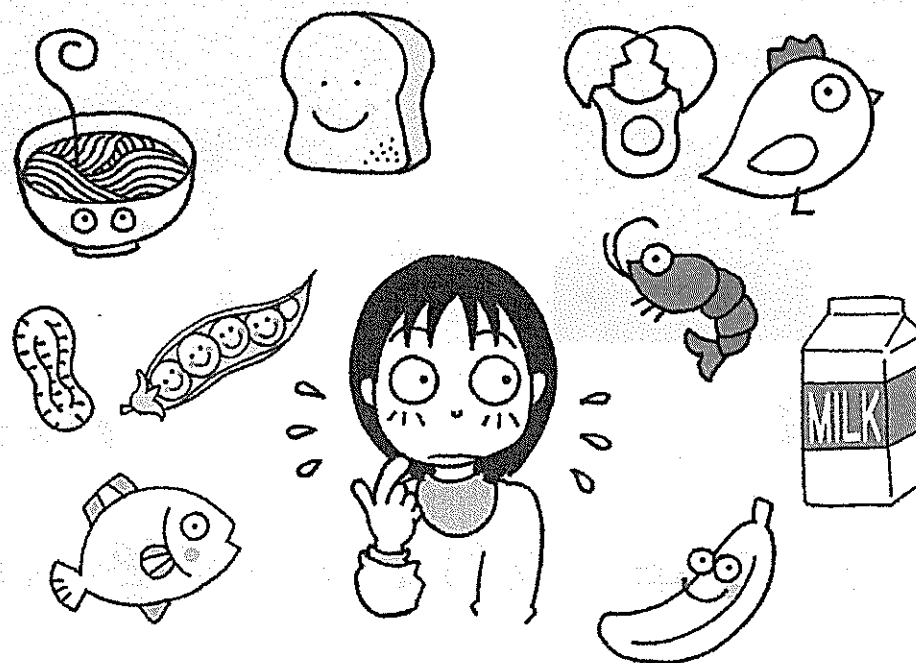


食物アレルギーに関する基礎知識

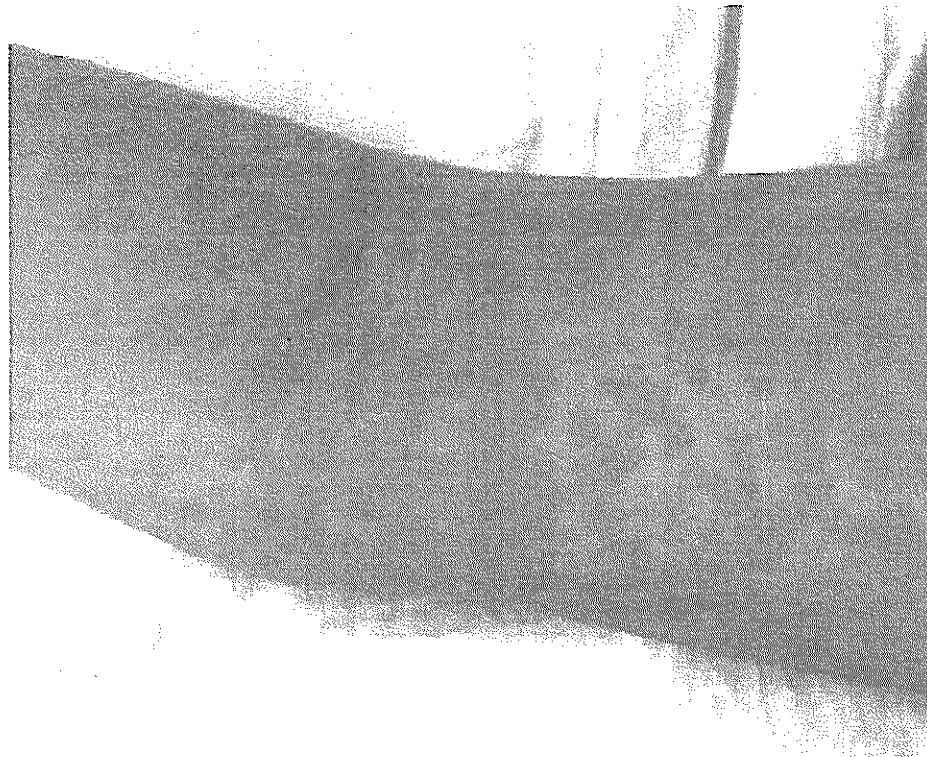


食物アレルギーの症状（1）

■ 皮膚の症状：

- ・ かゆみ、むくみ、じんましん、皮膚が赤くなる

じんましん



皮膚が赤くなる



食物アレルギーの症状（2）

■ 粘膜症状：

・ 眼の症状

白目が赤くなる・プヨプヨになる、かゆくなる、
涙が止まらない、まぶたがはれる



・ 鼻の症状

くしゃみ、鼻汁、鼻がつまる

・ 口やのどの症状

口の中やのどの違和感やはれ、
のどのかゆみ・イガイガ感



食物アレルギーの症状（3）

■ 消化器の症状：

腹痛、 気持ちが悪い、 吐く、 下痢



■ 呼吸器の症状：

のどが締めつけられる感じ、 声がかすれる、
犬がほえるようなせき、 せき込み、 ぜーぜー、
呼吸がしづらい



食物アレルギーの症状（4）

■ 全身性症状：

・ アナフィラキシー

皮膚・粘膜・消化器・呼吸器の様々な症状が複数出現し、
症状がどんどん進行してくる状態

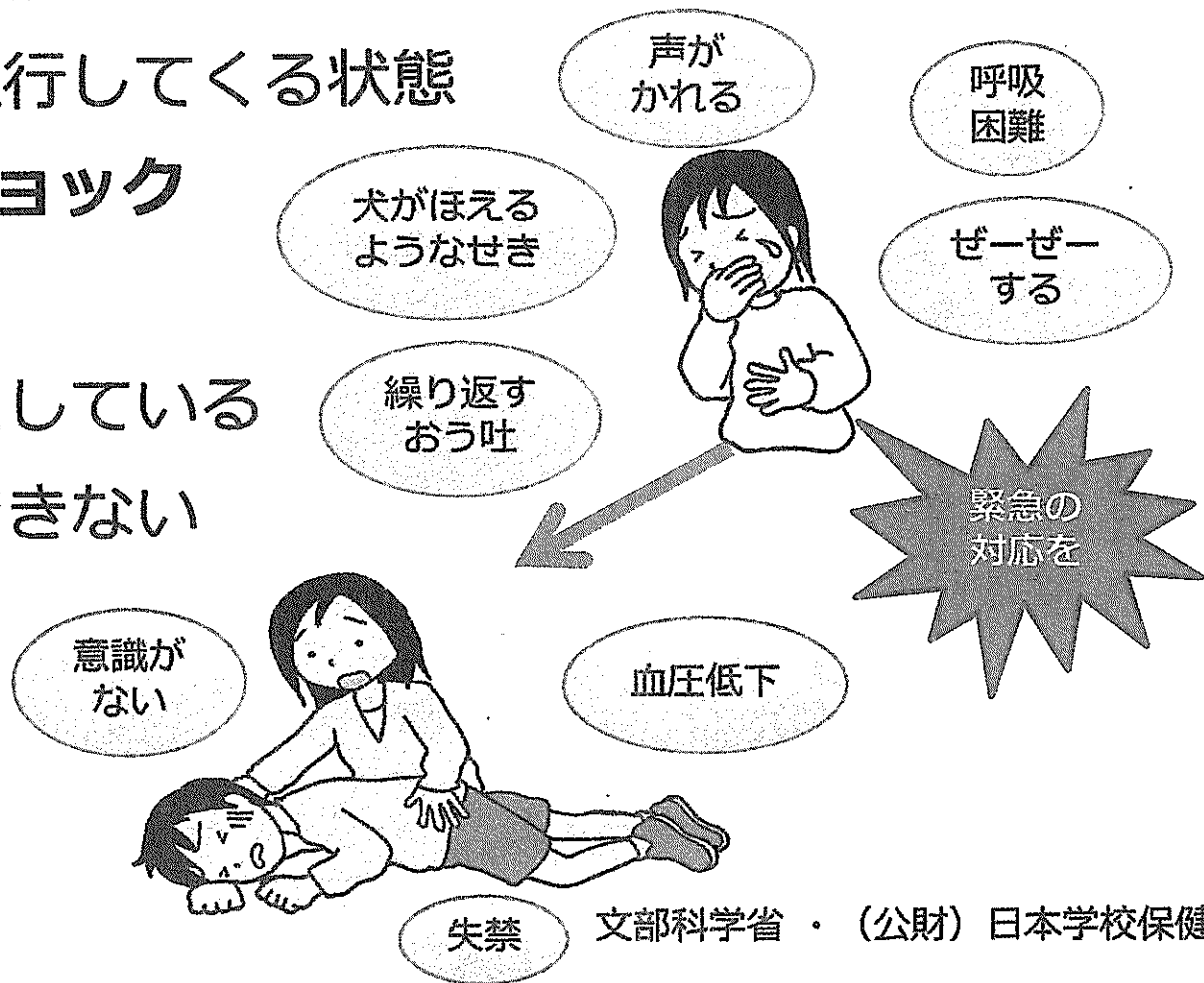
・ アナフィラキシーショック

ぐったり

意識がもうろうとしている

呼びかけに反応できない

顔色が悪い



学校で問題になる食物アレルギーのタイプ

タイプ	頻度の高い発症年齢	頻度の高い食物	耐性の獲得(治る可能性)	アナフィラキシーの危険性	
即時型症状 (じんましん、アナフィラキシーなど)	乳児期～成人期	年齢によって異なる 乳児～幼児： 鶏卵、牛乳、小麦、 そば、魚類、ピーナッツなど 学童～成人： 甲殻類、魚類、小麦、 果物類、そば、 ピーナッツなど	鶏卵、牛乳、 小麦、大豆 などは 高い その他は 低い	高い	
特殊型	食物依存性 運動誘発 アナフィラキシー	学童期～成人期	小麦、エビ、カニなど	低い	とても高い
	口くろアレルギー症候群	幼児期～成人期	果物・野菜など	低い	低い

「食物アレルギー診療の手引2011」より一部改変し、引用
文部科学省・(公財)日本学校保健会

アレルギーのしくみ

- アレルギー反応は、異物を撃退しようとする免疫反応の一つ
- 花粉や食物は体にとって有害ではないが、過剰に反応すると「IgE抗体」をつくり攻撃する
- IgE抗体はマスト細胞にくっつき、そこに花粉や食物の成分がつくと、ヒスタミンなど物質が出て、アレルギー症状が起こる

アレルギー性疾患

じんましん

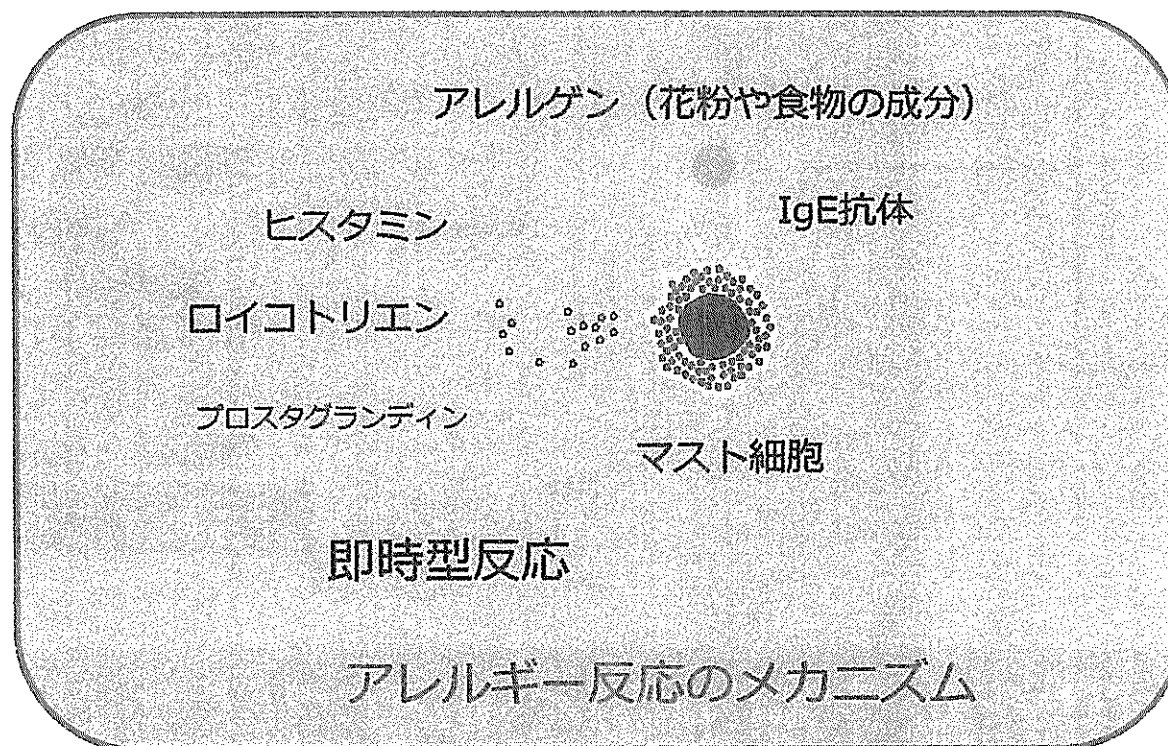
アレルギー性鼻炎

アレルギー性結膜炎

食物アレルギー

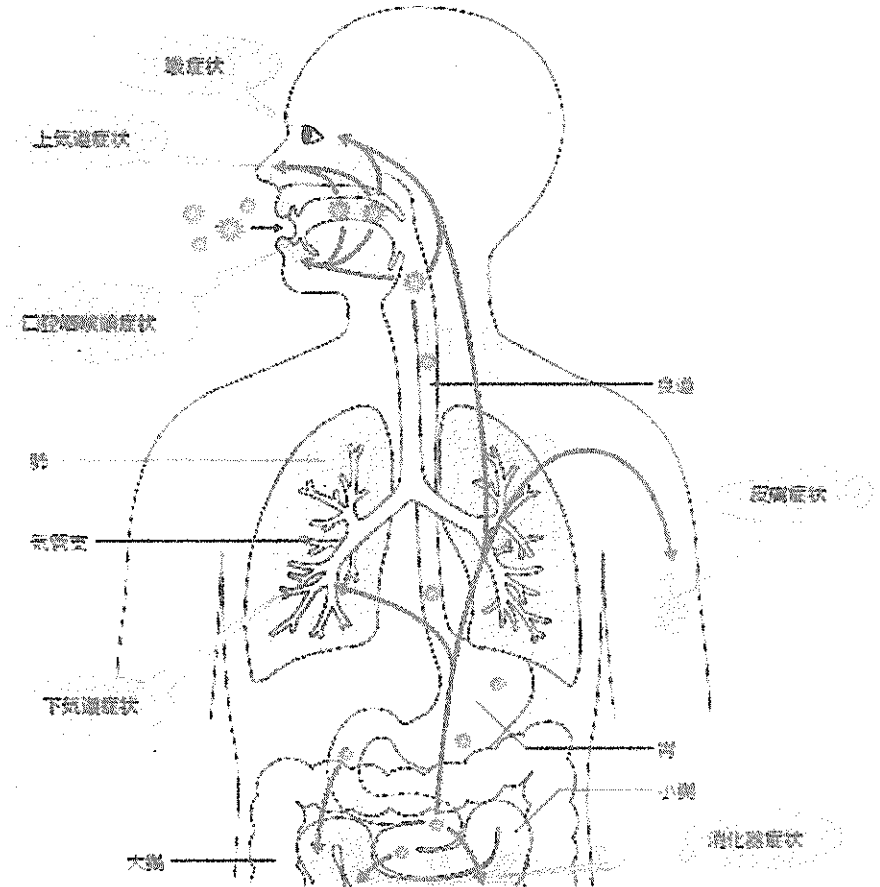
アトピー性皮膚炎

気管支ぜん息



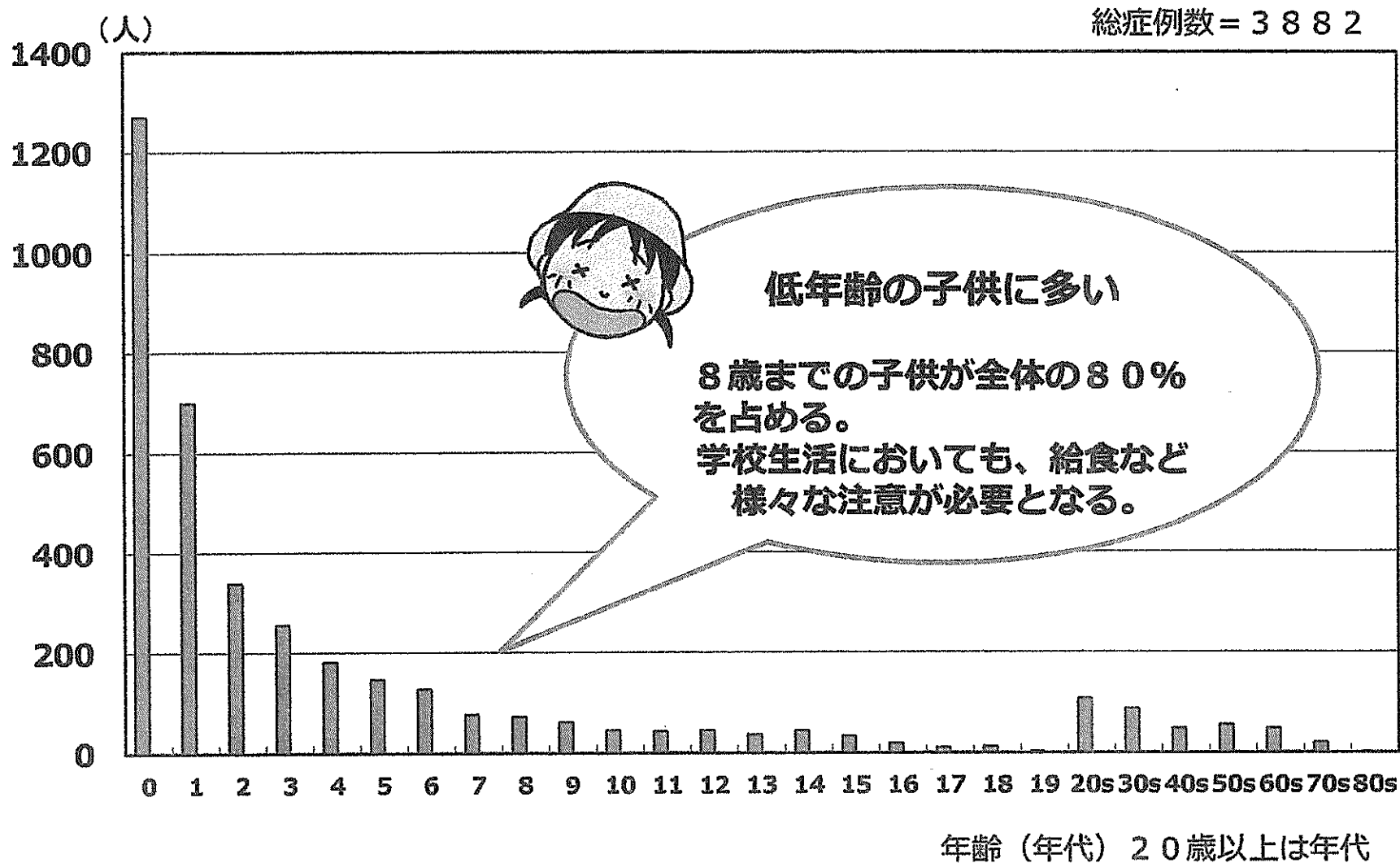
食物アレルギーにおけるアレルゲンの吸収と症状出現

	小腸経路	口くう粘膜経路
特徴	●多くの食物アレルギーの場合	●果物・野菜など ●口くうアレルギー症候群(OAS) ●元々は花粉に対して反応
アレルゲンタンパクの特徴	胃酸・消化酵素に対して安定 (鶏卵：オボムコイドや牛乳：カゼインなど)	熱・消化に不安定
症状出現時間	30分～2時間程度のことが多い	5分以内



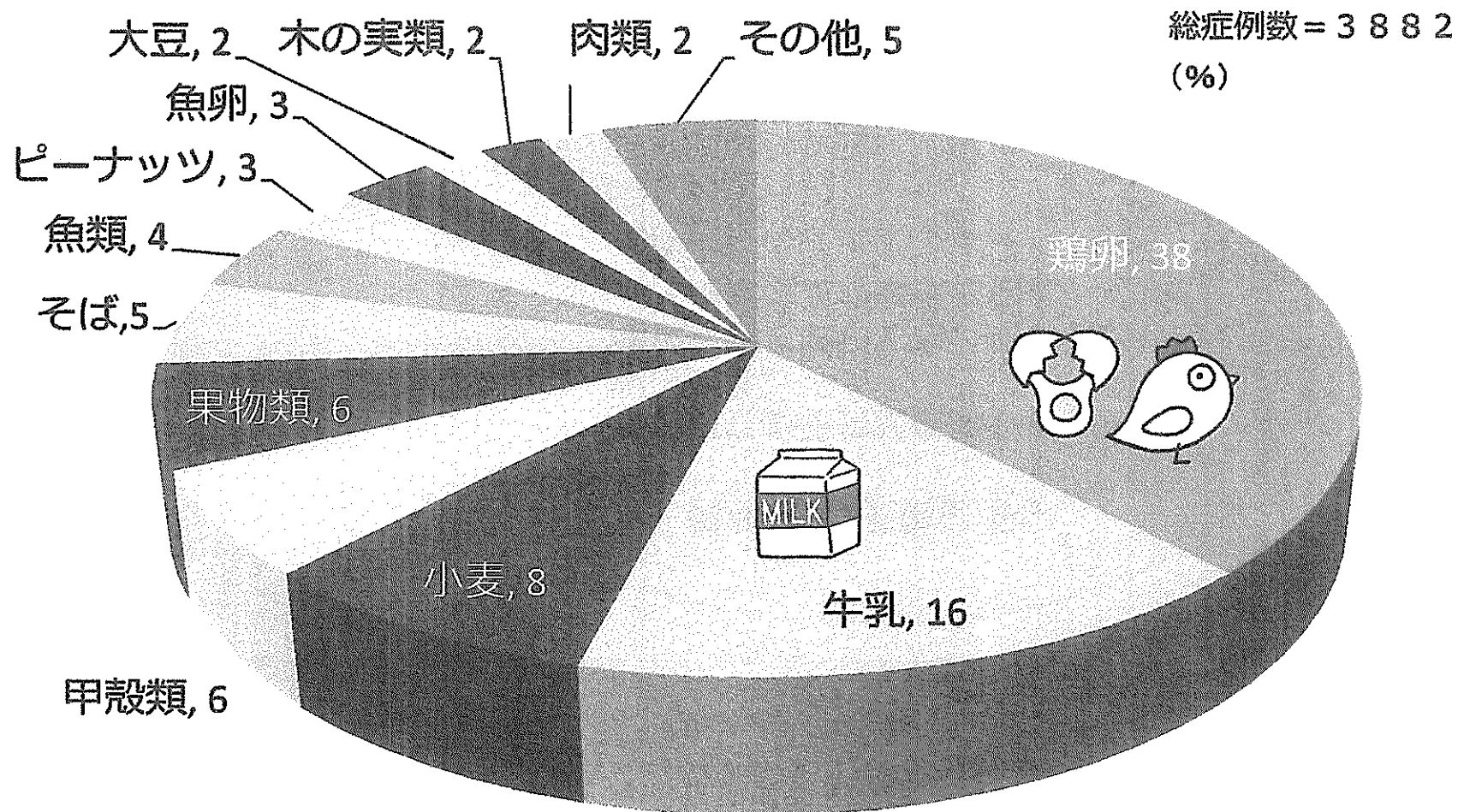
診断と治療社：小児アレルギーシリーズ「食物アレルギー」より引用
文部科学省・(公財)日本学校保健会

即時型食物アレルギーの年齢分布



日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会「食物アレルギー診療ガイドライン2012」より一部改変し、引用
文部科学省・(公財)日本学校保健会

原因食品の内訳（全年齢）



日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会「食物アレルギー診療ガイドライン2012」より一部改変し、引用
文部科学省・（公財）日本学校保健会

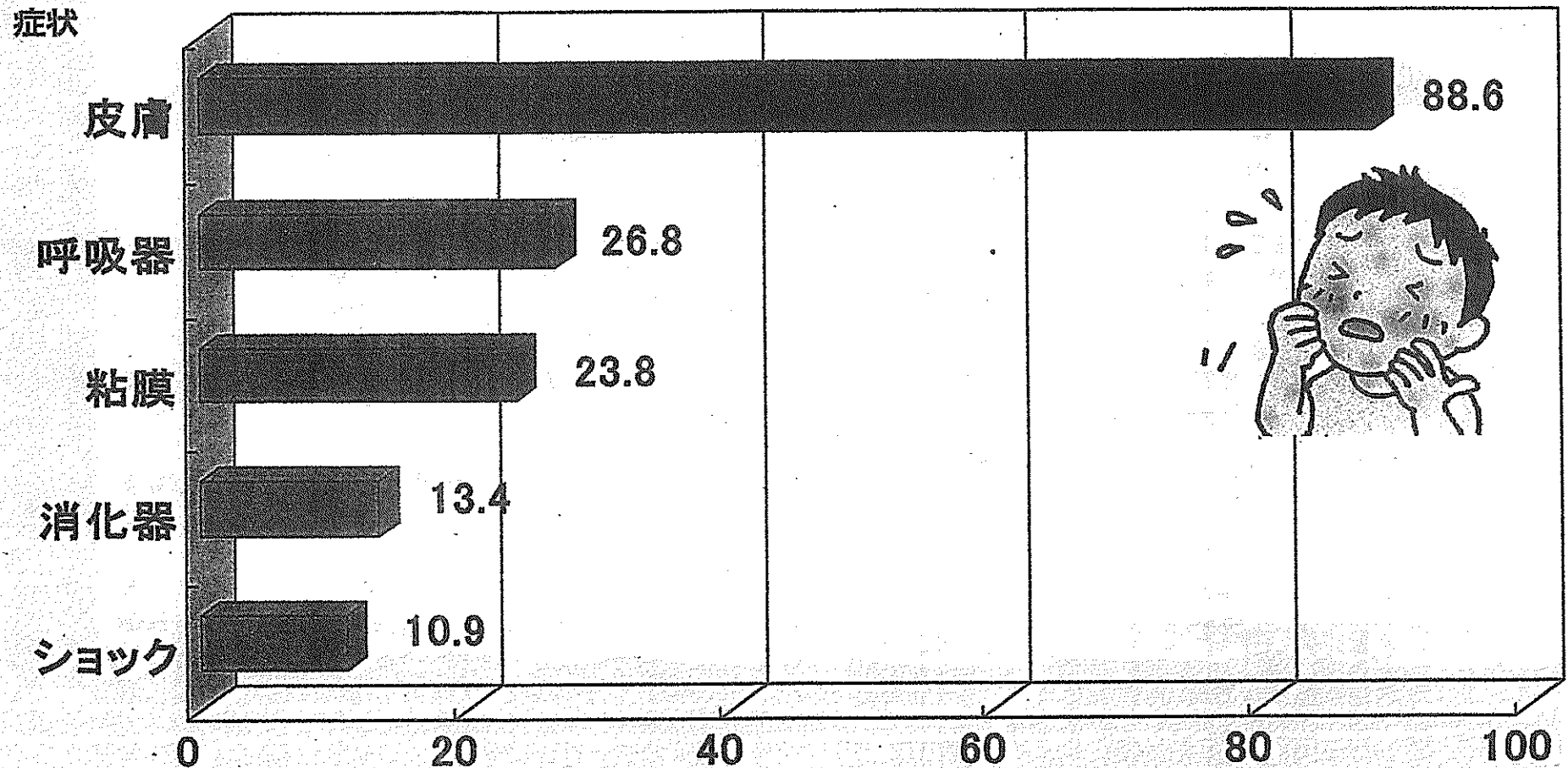
年齢別原因食品

年齢群	0歳	1歳	2, 3歳	4~6歳	7~19歳	20歳以上	合計
症例数	1270	699	594	454	499	366	3882
第1位	鶏卵 62.1%	鶏卵 44.6%	鶏卵 30.1%	鶏卵 23.3%	甲殻類 16.0%	甲殻類 18.0%	鶏卵 38.3%
第2位	牛乳 20.1%	牛乳 15.9%	牛乳 19.7%	牛乳 18.5%	鶏卵 15.2%	小麦 14.8%	牛乳 15.9%
第3位	小麦 7.1%	小麦 7.0%	小麦 7.7%	甲殻類 9.0%	ソバ 10.8%	果物類 12.8%	小麦 8.0%
第4位		魚卵 6.7%	ピーナッツ 5.2%	果物類 8.8%	小麦 9.6%	魚類 11.2%	甲殻類 6.2%
第5位			甲殻類 果物類 5.1%	ピーナッツ 6.2%	果物類 9.0%	ソバ 7.1%	果物類 6.0%
第6位				ソバ 5.9%	牛乳 8.2%	鶏卵 6.6%	ソバ 4.6%
第7位				小麦 5.3%	魚類 7.4%		魚類 4.4%

日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会「食物アレルギー診療ガイドライン2012」より引用
文部科学省・(公財)日本学校保健会

即時型食物アレルギーの誘発症状

総症例数 = 3882



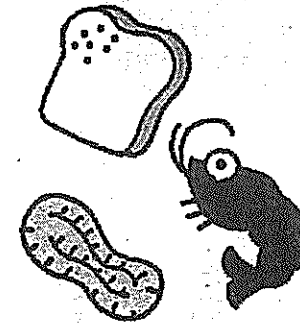
日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会「食物アレルギー診療ガイドライン2012」より一部改変し、引用
文部科学省・(公財)日本学校保健会

食物アレルギーの管理

《 原則 》 正しい診断による必要最小限の原因食物の除去

■ 正しい診断とは？

- ・ 食物経口負荷試験に基づいた診断
(診療所と専門病院の連携が基本)
- ・ 食物アレルギーによる症状 + 原因食物に対するIgE抗体が陽性



■ 必要最小限の除去とは？

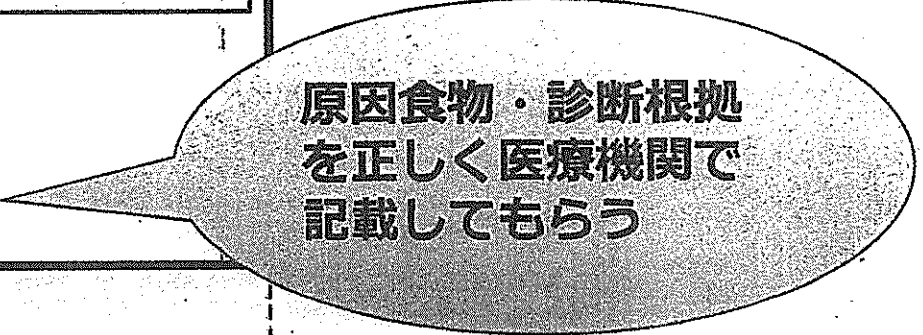
- ・ 食べると症状が出る食物だけを除去する。
- ・ 原因食物でも、症状が誘発されない「食べられる範囲」までは食べることができる。



原因食物・診断根拠

食物アレルギー（アレルギー）	病型・治療	学校生活上の留意点
	A. 食物アレルギー病型（食物アレルギーありの場合のみ記載） 1. 即時型 2. 口腔アレルギー症候群 3. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー	A. 給食 1. 配慮不要 2. 伊薬者と指差し決定
B. アナフィラキシー病型（アナフィラキシーの既往ありの場合のみ記載） 1. 食物（原因） 2. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー 3. 運動誘発アナフィラキシー 4. 昆虫 5. 医薬品 6. その他（ ）	B. 給食・給食外給食・運動 1. 配慮不要 2. 伊薬者と指差し決定 C. 運動（体育・部活動等） 1. 配慮不要 2. 伊薬者と指差し決定	
C. 原因食物・診断根拠 該当する食品の番号に○をし、かつ（ ）内に診断根拠を記載 1. 鶏卵（ ） 2. 牛乳・乳製品（ ） 3. 小麦（ ） 4. ソバ（ ） 5. ビーナッツ（ ） 6. 糖質類・木の皮類（ ） 7. 芋類類（芋・カニ）（ ） 8. 果物類（ ） 9. 魚類（ ） 10. 肉類（ ） 11. その他1（ ） 12. その他2（ ）	D. 宿泊を伴う校外運動 1. 配慮不要 2. 食事イベントの際に配慮が必要 E. その他の配慮・配慮事項（自由記載）	
D. 緊急時に備えた処方薬 1. 内服薬（抗ヒスタミン薬、ステロイド薬） 2. アドレナリン自己注射薬（「エピペン®」） 3. その他（ ）		

【診断根拠】該当するものを（ ）内に記載
 ① 明らか症状の既往
 ② 食物負荷試験陽性
 ③ IgE抗体検査結果陽性



管理指導表の運用と食物アレルギー申請率

a 管理指導表			b 医師の診断書に基づく対応			vs	c 保護者申出を含む対応		
(生徒数)	管理指導表 医師の診断書	保護者の 申し出を含む	(%)	管理指導表 医師の診断書	保護者の 申し出を含む		(%)	管理指導表 医師の診断書	保護者の 申し出を含む
小学校	96,668	117,300	小学校	4.14%	4.87%				
中学校	28,458	81,146	中学校	4.22%	4.93%				
高等学校	4,230	61,045	高等学校	3.23%	4.03%				
中等教育校	156	615	中等教育校	5.59%	4.95%				
全体	129,512	260,106	全体	4.12%	4.66%				

a 管理指導表の提出を必須とし、管理指導表に基づいて対応

b 管理指導表又はその他の医師の診断書の提出を必須とし、それらに基づいて対応

c 保護者の申出に基づいて対応 (管理指導表やその他の医師の診断書は求めない)

文部科学省委託事業「学校生活における健康管理に関する調査」平成25年度

文部科学省・(公財) 日本学校保健会

